

第5期第2回 帯広市産業振興会議

日時：平成30年5月8日（火）17:30～18:15

会場：ふく井ホテル2階

【出席者】

■委員：梶原雅仁、金山紀久、井田芙美子、大宮美紀子、小倉修二、金尾泰明、兼子賢、
河西健一、貴戸武利、佐藤憲、佐藤聡、志子田英明、高原淳、田中克宜

■オブザーバー：戸沼裕子、鱈場尊、鈴木義尚、澤村光幸

■帯広市：磯野照弘、吉田誠、加藤帝、谷澤正和、松本俊光、大林健一、山本哲矢、中田英二、
鷺北博敬、熊林佑允

(敬称略)

【資料】

- ・資料1 帯広市産業振興会議部会一覧
- ・資料2 帯広市産業振興会議今後の進め方、スケジュール等について
- ・参考資料 第5期帯広市産業振興会議委員名簿

1. 開会

2. 協議

- (1) 専門部会・テーマについて
- (2) 専門部会・委員について
- (3) 今後のスケジュールについて

事務局より、資料1及び資料2に基づき説明があった。

(事務局)

「第二期帯広市産業振興ビジョン」の策定に向け、現状の課題などを共有し、論点を整理していくための検討体制として、専門部会を設置し議論をいただくもの。

部会テーマについては、現ビジョンの中間見直しを行った平成26年度のテーマを軸に、「事業承継」などの現状を取り巻く項目も考慮し、「経営基盤・人材部会」、「ものづくり・販路拡大部会」、「集客・交流部会」の3部会を設置するもの。

委員の皆様の中から各部会長、副会長を選出し、4名ずつ各部会に分かれて議論いただく。会長、副会長については所属を決めず、各部会に柔軟に参加いただきたいと考えている。

各部会の臨時委員は、効果的な議論をすすめていく観点から、業種、人数などのバランスも考慮し、委員同数の4名程度とし、各部会の人数は概ね8名～10名程度と考えている。

委員の皆様の担当並びに正・副部会長については、資料1のとおり。

各部会の担当事務局はそれぞれ2課ずつ配置し、年内に6～7回程度開催したい。

資料1の右側、(臨時)部会委員名簿が空欄となっているが、こちらは、今月中をめどに、正・

副部会長と事務局で調整してまいりたい。

なお、資料2に示した、現状を取り巻くいくつかのキーワードについては、ここに挙げたものに限らず、部会の枠を超えてテーマ、論点となるものと考えており、各部会での議論内容は部会間、委員間で共有できるよう情報整理していきたいと考えている。

次に、資料2の2枚目、今後のスケジュール（想定）について。

平成30年度は、これから検討体制としての部会を立ち上げ、また並行して、アンケート、企業訪問等による実態調査を行う。

部会議論をいただきながら、必要に応じて進捗状況に対する意見交換やアンケート調査の中間報告などを行っていく。

年内を目処に各部会議論のまとめを行い、年明け、ビジョンのフレームを整理。

年度内にフレームに基づいてビジョンの文章化をすすめ、素案の整理、と考えている。

平成31年度には市の新たな総合計画策定のスケジュールと整合をとりながら、年末までには原案の整理、年明け頃にパブリックコメントを実施し、年度末にビジョン策定となるものと考えている。

(会長)

皆さんから意見、質問などあればお願いしたい。

(委員)

前回、中間見直しまでは部会が4つあったが、今回3つになった経緯は。

(事務局)

前回は、「人材」でひとつの部会を設けて議論をした。今回、その部分については、人手不足や事業承継などの課題が深く関係してくると認識している。一方、経営基盤という考え方においては「ヒト・モノ・カネ・情報」がある。その中で、人材を切り離して議論する意味を検討する必要があると考えている。

そのため、今回は「経営基盤・人材部会」とし、経営資源そのものについて考える部会のなかで広く議論していきたい。

10年前のビジョンをつくったときは、経営基盤と人材を一緒に議論してきた経緯がある。今回についても、人材の部分をもどのように議論していくか、部会長とも相談しながら整理したい。

(会長)

専門部会の委員については、各部会に4名ずつ分かれて入って頂いている。資料1にあるように、○印が部会長、△が副部会長という形をとらせていただきたい。

先ほどの説明で、会長・副会長はどこでも自由に参加できるようにということで、特定の部会に張り付かないという説明をさせていただいた。

それもいいと思うが、例えば副会長が張り付かないと、それぞれの部会長の責任が大分重たくなるかなということもあるので、張り付かないまでも担当を決めて欲しいなど、ご意見があ

れば。

(委員)

担当が決まっているとよいと思うが、お任せする。

(委員)

困ったときはどなたかに相談させていただく。

(会長)

それでは、正・副会長3人いますし、特に張り付けしないで、なにかあれば相談して欲しいということで、この体制で進めさせていただく。

各部会に委嘱する臨時委員の選任方法は。

(事務局)

これまで、商工会議所、同友会などと事前に相談させてもらって、候補者リストのようなかたちでまとめている。そういったものをベースに、正・副部会長と相談させてもらいながら、最終的に正・副会長の了承を得て整理していきたい。

(会長)

今後のスケジュールについて、アンケート調査、企業訪問、実態調査は具体的にどういうイメージになるのか。

(事務局)

アンケート調査については、実は1回目のビジョンをつくるときにはやっていない。前回の中間見直しの際は、平成25年にやっている。具体的には、市内の企業に直接アンケート票を送付して、返却してもらう形になる。しかし、アンケートだけでは伺いきれないところがあるので、あわせて企業訪問をした経過がある。

今回、どうしても部会の議論が先行してしまうところがあるが、アンケート調査や企業訪問の結果については、速報などで速やかに各部会に報告させてもらい、議論を深めて頂こうと考えている。

日程については、6月頃実施、できるだけ早く集計をして、皆さんにお知らせしたいと思っている。

(会長)

アンケート調査の内容については、各専門部会の意見を聞くことはしないのか。事務局サイドでつくったアンケートか。

(事務局)

事務局でたたき台をつくり、各部会からのアドバイスも頂きたい。

(委員)

景気調査のような内容になるのか。

(事務局)

金融機関等がやっているD Iのような形ではなく、もう少し踏み込んで聞くような中身を想定している。例えば、今、人手不足や事業承継などが課題になっているが、そういった課題も少し聞けるような項目をつくりたい。単純に景気が良い・悪い、業界はどう、といった漠然としたものより少し具体的に。

(会長)

労働力不足は各機関でアンケート等やっていて、バブル期よりも不足しているという調査結果がすでに出ている。

(事務局)

特に人手不足は、10年前にビジョンをつくったときは、それほど意識されていなかったが、5年前のアンケート調査、実態調査をやったときにはもうすでに出てきている。今、私どもが企業訪問するなかでも、多くの企業で不足しているという話を聞いている。

(委員)

金融機関の調査という話で、3か月に一度調査をしている。人材不足の部分に関しては必ず項目の中にいれて調査しており、ある程度は時系列あるいは業種別での数字を我々は持っているのも、もしアンケートをとるときに必要なであれば言っていただければと思う。項目もそれで変えられる。

ただ、帯広市内だけでなく、十勝管内にはなってしまうが、参考にはなると思う。

(事務局)

今おっしゃっていた、まさしく金融機関だとかあるいは財務事務所等が持っている調査があり、それらについても皆さんにお示しをしながら議論の参考にもしていただきたいと思っている。

(会長)

議論を深める中でアンケート調査が重要なポイントになってくると思うので、ここをきちんとやらないと議論が変な方向に走っても困る。そこは調査を行う前に専門部会にしっかりかけてほしい。

(委員)

前回、第1回目のスタートの時の話の中で、十勝全域を念頭においた形でやっていかなければ、という話をさせてもらって、たしか事務局からは検討させていただくとの回答で終わって

いると思ったが。

今回進めるにあたって人選もそうだし、いろんな意味でそこらへんは念頭に置きながらやっていっても構わないという理解なのか、やはり帯広市内という限定の枠の中で話を進めてほしいと事務局側が思っているのか、そのへんのスタンスを教えてください。

(事務局)

帯広市の計画になるので、基本は帯広市の中小企業者の方で議論していただこうと思っている。ただし、特に企業には行政区域は関係がないので、その部分の議論を排除するというのはおかしい話。部会ごとでオブザーバーに参加していただき、意見をいただくという場は必要だと思っている。そのやり方については、正直部会によっても違うと思う。観光はまさしく行政区域を越えて、他と繋がる中で成果を求めていく業種なので、その部分についてはまさしく部会ごと、部会長と相談しながら整理していきたいと思っている。

(会長)

ということで、委員には帯広市の人を選ぶが、検討する中身は十勝全域を考えていくということで構わないということによろしいか。帯広だけでは完結しない。

(委員)

よい。

(委員)

スケジュールを確認したいが、部会の開催は5～11月で6～7回程度やるということは、月1回開催することでよいか。

(事務局)

前回は参加していただいてご存知かもしれないが、基本は月1回で考えている。ただ、各部会で議論していく中で、どうしても進捗が遅れることや、とりまとめが十分でないなど様々な事情が出てくると思う。その場合にはもしかしたら臨時でもう少し、月2回とか開く場合もあるかもしれない。

(委員)

あと資料2の2ページ目にある4番のスケジュールの5月はどう、6月はどうって書いてあるのは、会議として15名が集まる場という理解をしてよいか。例えば部会進捗状況についてというのとか、アンケート中間報告というのが9月にあるが、会議がこれは開かれるという意味でよいか。

(事務局)

親会議を開くタイミングで一応想定はしているが、節目節目で親会議を開催して、各部会の進捗状況の共有はしていく必要がある。想定では9月と12月。

(委員)

9月と12月、了解した。忙しくなりそう。

(会長)

よろしく願います。基本的には専門部会は毎月1回、全体は3か月に1回くらいという感じだと。必要に応じて、開催することをご了承願いたい。

お忙しい方ばかりだと思うが、今のうちに言っておきたいことは、言っておいたほうが良い。

(会長)

専門部会は集まる時間帯は決まっているのか。業種によって忙しい時間帯もあると思う。何時ころで想定しているのか。

(事務局)

基本は皆さんが集まりやすい時間をあらかじめ聞かせてもらい調整する。

(会長)

それでは部会ごとで集まりやすい時間を考えていただきたい。

せっかく議論するので、なるべく皆さんが集まりやすい時間を設定していただきたい。

(委員)

総合戦略推進会議と産業振興会議との連携は、切り離して考えているのか。

(事務局)

総合戦略は、産業振興だけの計画ではないので、そういった意味では少し幅広く議論する場になる。ただ、実質は産業振興の部分がとてもウエイトが高いため、そこが悩みどころ。その会議ができるまでは、産業分野については産業振興会議が唯一の会議の場だった。

どういうやり方があるのかももう少し考える。

なお、今回つくる計画は、総合計画の中の分野計画という位置づけになる。

そういう意味では、総合計画のほうが強い計画だと思う。基本的に、ここの議論を通して、分野計画である産業振興ビジョンを作っていくが、そのエキスを抜いて総合計画に移植していくことになる。

総合戦略についても、総合計画の分野計画という位置づけになる。

ただ、分野計画はそれぞれ切り口が違っていて、ここの場合は産業振興の切り口になっており、総合戦略の場合には人口に着目した計画でそれぞれ違う。この場で議論、意識すべきなのは、どちらかという総合計画になろうかと思う。

(委員)

なんでこんなこと言うかという、すごく内容的には合致するところはあると考えているが、

前回の向こうの会議で、委員からの発言がゼロだった。発言したのは私だけ。

委員さんがどういう気持ちで参加しているかは別だが、結局、役所側がつくったものが「これで進めます」という形で終わっている。

進めると決定したのだったら、決定したものがこちらの会議にフィードバックして落ちてきてくれないと。違うことをやっていたら時間の無駄になる。そういう意味で連携はどうなっているのか確認したかった。

(事務局)

そういう意味では、計画同士の整合性をとることは間違いなく必要になってくる。総合戦略も先ほど言ったとおり計画のひとつなので。

基本、計画間の整合性は、事務局でとる。ただ一方で、総合戦略で行われている議論や、計画の内容を皆さんが知らなくてもいいということでは決してないので、こういった情報の共有の仕方がいいか、今思いつかないがやり方は考えてみる。

(委員)

それも含めてなんだが、各部会に分かれて議論するが、全委員の共通の認識というのが大事だと思う。そういう意味でも、総合戦略の中で出てきて、これはみんなで共通の認識にしないとダメだという内容は伝えてもらいたい。各部会で勝手にバラバラになっても困る。うまく連携を取ってほしい。

(会長)

事務局でしっかりやってもらいたい。

(委員)

勉強になったなと思うのは、とかちプラザで開催された中小企業振興基本条例施行 10 周年記念事業。AI や IoT、産業など、地域がどうあるべきかという話がとても参考になった。残念ながら出られていない方もいらっしゃるので、その時の資料や要約などをみんなで共有できればいいなと思う。

(事務局)

前回参加されていない方もいらっしゃるので、ざっくりお話すると、植田先生が中小企業振興論を基調講演でお話いただき、それを受けて、東洋農機の渡辺さん、帯広畜産大学の金山先生、竹川会計事務所の竹川先生でパネルディスカッションをしていただいた。

特に東洋農機の渡辺さんは熱の入った話もされていた印象がある。流れはそういったもの。資料については、みなさんに情報提供させていただく。

(委員)

いずれにしても、各部会で範囲がかなり広い。話が逸れていくとかなり違う方向にいくので、曲がっていったときには事務局に助けてもらえればと。

(委員)

まだあまり理解ができていないので、確認させていただきたい。要するに部会に分かれて、最終的に目標をつくっていくことが今回の目的だと思うが、6月頃から進めるアンケート調査の結果を受けないと議論ができないのではないかと思うが。

(事務局)

きれいな形で議論を進めるには、今おっしゃったとおりで、アンケートがベースにあって、そこから議論するというのが理想的だと思うが、正直アンケートについては先ほども申し上げたように、時期が間に合わないので、部会で議論は先行していただく。例えば、平成26年のときに実施した実態調査の結果なども情報提供させていただきながら、新たに実施する実態調査の結果についても比較しながら議論していくというやり方もあると思う。

(会長)

金融機関などが最新の調査も持っているから、そういうのをまず参考にして、それからアンケート結果をすり合わせてやっていけば。

(委員)

最新の調査結果がどうだったのか、アンケートの結果など、丁寧な情報共有の時間を最初の部会で組めると良いと思う。

(委員)

部会の人員の分け方に関してなんら文句はないが、やろうとしていることは、実は我々が普段からやろうとしていることと、かなりかぶっている。

例えば、販路拡大に関しても、普段からいろんなメニューを使っているのも、もし部会で、必要であれば、どんな傾向であるとか、十勝の事業所の皆さんがどんなところに悩んでいるのか、というようなところは情報提供できると思う。

それから、人材に関しても、セミナーなども数多くやっているため、どういう形で情報提供したらいいのか今は整理つかないが、ご相談いただければ情報提供可能だと思っている。

(会長)

情報はたくさんあると思う。今日オブザーバーとして、多くの団体の方に来ていただいているし、とかち財団はものづくりをずっとやられているし、会議所も人材に関してやっていただいている。皆さんそれぞれやられているので、そういったところの情報もしっかりもらいながら進めていってもらえれば、いいものができると思うので、よろしく願います。

(委員)

非常に初歩的な話というか議題になるかもしれないが、帯広十勝の地域の色々な経済指標があると思う、具体的には、地域GNPやGDPなど。あと、その消費と投資の伸びというのは

どの新聞を見ても一番気になっている項目だと思う。その辺の傾向値や実際の生の数字が分かる資料を事務局で用意してもらいたい。ずばり十勝はどうか分かるものを。農業とそれ以外というのを少し切り分けた方がいいかもしれない。各部会を始める前に参考値として、地域経済の現況を把握し直すようなことをお願いできればと思う。

(委員)

今の考えも参考にはするが、条例と産業振興会議ができてどういうふうに地域が変わっていったかという統計的な数値はない。そのことを意識した数字も整理しながらの方がいいのではないかと思う。中小企業振興条例があるからこう変わったというような単純ではいかないとは思いますが。

10年も経ったけど具体的な数字が見えない。ここにいる方はみんなそれなりの威力は感じているとは思いますが。

(事務局)

時系列で数字も追ってみる方が、意味がある議論ができるのではないかというお話だと思う。

(委員)

私の所属させていただく、ものづくり・販路拡大部会に関して言うと、全く知識が足りない中での意見だが、そもそも十勝は食品の加工が弱い。原料のまま域外に出してしまうと言われている背景があるなかで、アンケートの手段をとることが、どれだけの効果があるのか。

アンケートを取るからには結果を反映させなければならないが、どこまでバランスをとる必要があるのか、それは各々部会の中で考えていくとは思いますが、どうなるかなと気になった。

事業所数がこれくらいで、アンケートがこれくらい集まったという数字で見せていただけだと思うが、しっかり把握しながら進めたいと思う。そもそもフードバレーの何を指すのかという議題が出てくる。もしかしたら市長に話をしてもらう必要があるかも。

(委員)

前回は部会を作り、ビジョンを策定したというお話は伺ったが、数字での結果ははっきり出ていないということだが、数字がなければ、前回のビジョン策定から具体的な効果や成果の有無などを確認できない。前回の部分の結果や反省点があれば、今回のビジョンを作るのにも活かせるのではないかと思う。

(会長)

おっしゃるとおりだと思う。その辺の数字は揃えることは可能か。

(事務局)

今頂いた意見を踏まえ用意する。

既存の資料だとしても、時系列などで追っていくとその変化というものから地域の課題がもしかしたら読み取れるのではということもあり、財務事務所や金融機関などで実施している

様々な調査がある。そういった資料を情報提供させてもらいながら、議論いただきたい。

(委員)

前回のアンケート調査に関わっていたが、数字は数字で大事なのだが、数字に表れてこないこともある。今回はそこを拾うために、個別訪問を行い事業者の話聞いていたと記憶している。訪問して聞くことが必要だと思う。今回は訪問して聞き取りをどれくらいやるのか。

(会長)

今回は予定しているのか。

(事務局)

今言われた定量で数字として出すということも大事だと思うが、質、定性的な分析も必要だと思っている。今回も同じやり方でやりたいと思う。

(副会長)

皆さん色々な考えを持たれているので、そういう議論が部会で出るようになっていけばいいと思う。

これまでの10年とこれからの10年はかなり違う。SNSやIoT、ICTなど出ているが、状況がこれまでとかなり変わっていく中で、どういう対応をしなければならないかというのは、これまでの調査だけではなく、これからどうなっていくのかというのを皆さんでディスカッションをして、具体的な取組みが見えるようなビジョンを作っていたきたい。

ビジョンには市民の役割で市民が中小企業を支えるという文言が入っているが、どれくらいの市民が理解しているのか。理解しろという問題ではないが、地域の活動者が、産業の活動のなかで、直接市民の生活に繋がっていくような関係になっていくか。地域が地域を支える、それは甘えではなく、地域の中小企業の人々が市民に対する責任を果たしつつ、市民がそれを受けていく、それを支えていく。これからは具体的な意識の元で地域を作っていくと地域が活性化しない、振興していかないという時代であると思う。

域外でいくべきか、域内でまわすべきか、いろんな課題がある。そういうことをうまく整理しながらビジョンを作っていたきたい。

人材にしても、外から呼び込むのか、内部で育て残すのかなど、局面は色々ある。人が足りないと言っているものをどうするのか、ここでせっかく育てたけど、結局域外に出て行くのは、なにか違うと思う。

以前、10周年の記念で植田先生が言っていた中でも、企業が人材を確保するために、地域の企業が魅力あることでもしない限り、外に出ていくと話していた。まさにこれまでの状況と違い、外に吸引される力が強かったりする時代の中で、地域で魅力あるものを作っていくことが、まさに振興で、人材の確保などいろんな意味で繋がっていくと思う。

私も大分年をとったが、やはり実りのあるような部分の繋がりを皆さんで共有できたらいいなと強く思っている。期待しているので、よろしくお願ひしたいと思う。

(会長)

この委員会もいよいよスタートし、約2年間やっていくので、皆さんお忙しい中だとは思いますが、皆さんのお力と知恵をお借りしたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

(委員)

この委員はいつ決めるのか。

(事務局)

正副部会長と事務局で相談させていただき整理をし、各部会の委員の皆さんにお知らせしたい。日にちは決めていないが、今月中には部会のメンバーは整理していきたい。

是非この人がいいという方がいたら、部会長と副部会長に耳打ちしていただければと思う。

(会長)

基本的には部会長と副部会長、事務局で選考していく形をとり、各委員の皆さんは、こういう人がいるということをお知らせいただければ検討させてもらおうということ。

他になれば、産業振興会議を終了する。

3. 閉会